

光化学オキシダントの測定結果（平成30年度）

光化学オキシダントは、窒素酸化物や炭化水素類が紫外線を受けて光化学反応を起こし、二次的に生成される酸化性物質で、光化学大気汚染（いわゆる光化学スモッグ）の原因物質とされ、その発生は気温、風向、風速、日射量等の気象条件に大きく左右されます。

平成30年度に、光化学オキシダントについて15測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、いずれの測定局においても環境基準を達成できませんでした。

昼間（午前5時から午後8時まで）の1時間値の最高値が最も高かったのは、笠原測定局の0.145ppmでした。

なお、平成30年度は、東濃西部地域で1回、「岐阜県大気汚染対策要綱」に基づく光化学スモッグ注意報の発令があった。

地域	測定局名	昼間測定日数 (日)	昼間測定時間 (時間)	昼間年平均値 (ppm)	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数とその割合		昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数とその割合		昼間の1時間値の最高値 (ppm)	日最高1時間値の年平均 (ppm)	環境基準の適否 適○否×	平成29年度	
					日	%	時間	%				昼間年平均値 (ppm)	環境基準の適否
岐阜	岐阜中央	365	5395	0.035	73	20.0	402	7.5	0.113	0.050	×	0.035	×
	岐阜南部	365	5395	0.034	80	21.9	417	7.7	0.106	0.049	×	0.034	×
	岐阜北部	365	5401	0.034	69	18.9	376	7.0	0.111	0.048	×	0.034	×
	各務原	347	5107	0.036	73	21.0	399	7.8	0.110	0.050	×	0.035	×
	本巣	363	5393	0.035	73	20.1	430	8.0	0.113	0.050	×	0.035	×
	平均			0.035									0.035
西濃・羽島	羽島	334	4951	0.033	65	19.5	351	7.1	0.113	0.048	×	0.034	×
	大垣中央	365	5440	0.035	75	20.5	397	7.3	0.119	0.049	×	0.038	×
	大垣南部	349	5153	0.034	72	20.6	385	7.5	0.102	0.048	×	0.033	×
	平均			0.034								0.035	
可茂	美濃加茂	361	5350	0.032	79	21.9	394	7.4	0.124	0.048	×	0.032	×
中濃	関	362	5390	0.032	76	21.0	432	8.0	0.113	0.049	×		
東濃西部	笠原	346	5136	0.034	84	24.3	460	9.0	0.145	0.050	×	0.034	×
恵那・中津川	中津川	364	5407	0.031	76	20.9	419	7.7	0.129	0.048	×	0.031	×
下呂	下呂	365	5438	0.034	59	16.2	324	6.0	0.098	0.046	×	0.035	×
飛騨	高山	326	4854	0.033	42	12.9	261	5.4	0.086	0.045	×	0.033	×
乗鞍		363	5419	0.045	80	22.0	583	10.8	0.098	0.052	非適用	0.047	非適用
県平均				0.034								0.034	

備考) 1 県環境管理課調べ

2 昼間は、午前5時から午後8時までを示す。

3 環境基準に適合しているとは、1時間値が0.06ppm以下(0.06ppmを超えた時間数がゼロ)であることを示す。

4 県平均に、乗鞍測定局は含まない。